



# 神奈川支部報

神奈川支部報 第 15 号

発行日：2020年7月1日

発行者：込田伸夫

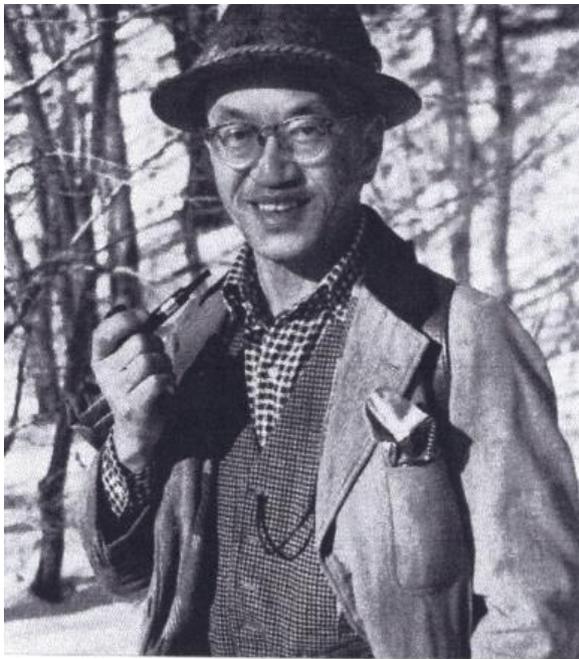
発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部

横浜市青葉区若草台 2-58 込田方

## 丹沢おぼえがき (7)

—丹沢山で出会った2組の先蹤者たち—

砂田定夫



大正の中頃は、日本アルプスにおける探検時代が一区切りを迎えようとしていた時代であり、縦走から溪谷探訪へと領域を広げ、一方奥秩父、上越、只見などに登山者が分け入るのはそのころだった。丹沢においても、その核心部に登山者たちが訪れることは稀であった。ところが丹沢山の頂上で偶然にも2組のパーティがぼったり出会ったのである。一組は日本山岳会横浜支部の北澤基幸・加山龍之介一行で、人夫2名(案内人ではない)を伴っていた。北澤は1905年武田久吉らと玄倉川から塔ノ岳へ登った(『支部報』12号)日本博物学同志会の一人である。彼らは1918(大正7)年5月11日、

曾屋に前泊し、翌12日大倉尾根を登り、塔ノ岳から丹沢山に至り、その先のタワまで下ってから往路を引き返した。

もう一方は、日本山岳会の戸澤英一・藤島敏男のパーティで、山北駅から河内川沿いに神縄を経て玄倉へ入る。1905年に武田らが市間、高杉を経て大野山の東を越えたことから思えば懸命なルート選択であった。玄倉から山神峠を経て、玄倉川の逆木までは武田らと同じルートで、その先の諸子平では製板所の新しい小屋を目にしたたり、御料林の役人用休憩舎に寄り添っている。沢を遡ってユージン沢出合経由で、熊木と呼ばれた熊木沢と箒杉沢の出合にあった製板所の事務所に宿泊した。翌12日は山本甚蔵という猟師を案内に、熊木沢を遡行して蛭ヶ岳に直登する。山頂にはエンレイソウやイチリンソウが咲いていたという。これまでの先蹤者たちは8、9月に登っていたが、5月初めで草いきれや生い茂るススキなどがなかったのも、快適な登山だったようだ。前記の北澤、加山のパーティと出会ったのは丹沢山に登り着いたときだった。「やはり山で人に会うという特有の懐かしさと親しみの情とにかられて…お互いに好きな山の話にふける」とその時の感想を書いている。塔ノ岳から熊木まで西尾根を下ったものと思われる。そのあとは簡単な記述となっているが、箒杉沢を少し戻って支流のオガラ沢出合から鍋割峠(付近)を越えて寄沢へ下ったのではないかと思われる。稲郷を経て松田へ着いたときは20時30分だったという。なお、ふたりは丹沢の名は知られているが、山そのものはまだよく知られていなかったと述べており、当時の丹沢登山の後進性を感じさせる。ルートとして選んだユージンから熊木沢を遡って蛭ヶ岳へ直登した記録は、丹沢登山史上特筆すべきものである。因みに、藤島は当時22歳、その翌1919年に皇海山、次の年には利根水源の山へ大先達の木暮理太郎と同道してい

る。また、同年7月藤島が土樽の剣持政吉の案内で森喬とともに谷川連峰を踏破した記録は、登山者として最初のもので、みなかみ町が7月2日を「谷川岳の日」と制定した根拠となった。藤島は後に日本山岳会の理事、評議員、副会長を歴任して永年にわたって会に尽くし、名誉会員になっている。

(写真は藤島敏夫、昭和34年1月、西上州において一望月達夫『忘れえぬ山の人々』より)

## 令和2年神奈川支部総会報告

5月23日(土) 13:30~16:15、神奈川大学横浜キャンパスで予定されていた支部総会は新型コロナウイルス感染がまだ進行中の状況が続いている状況に鑑み、出席者の健康を第一に考え支部総会を中止を決定。書面による議決を行うこととした。メールアドレスを保有者にはメール添付、非保有者には郵送にて議案書を発送、内容を確認の上委任状、または、議決権行使書のどちらかにて回答をお願いした。

### 決議事項

- 第1号議案 平成31(令和元)年度事業報告
- 第2号議案 平成31(令和元)年度会計報告
- 第3号議案 令和2年度事業計画案
- 第4号議案 令和2年度予算案
- 第5号議案 支部会員一覧・支部執行体制

議決権行使有資格者：151名  
支部長への委任状による議決者：54名、  
書面議決者：28名(全員、全議案に賛成)  
議案賛成者は82名

過半数を超えているので、5件の議案はすべて可決承認された。

### (執行体制)

#### 役員

込田伸夫 (No. 9546)	支部長
大槻利行 (No. 13019)	副支部長
早川正志 (No. 13956)	副支部長
永井泰樹 (No. 14998)	事務局長
森武昭 (No. 9620)	事務局補佐
青木まゆみ (No. 15793)	会計
柴山信夫 (No. 13123)	

落合正治 (No. 13517)	
廣岡正敏 (No. 14863)	
長島泰博 (No. 15418)	
植木貞一郎 (No. 15450)	
田島剛 (No. 15835)	
渡辺正敏 (No. 16276)	自然保護関係担当
田中浩二 (No. 16461)	救急、安全担当
葉上徹郎 (No. 16469)	広報担当

#### 監事

砂田 定夫	(No. 7863)
富岡 一郎	(No. 12102)

#### 顧問

川俣 俊一	(No. 5007)
堀井 昌子	(No. 8852)
中山 茂樹	(No. 11319)
星 征雅	(No. 14837)

#### オブザーバー

五十幡広樹	(No. 14766)
-------	-------------

## 令和2年度(2020年度)を迎えて

永井泰樹

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で、新たな生活様式にシフトしなければならないという未曾有の体験から始まりました。

当支部においては、期首から

(1)自然観察会(横浜市：こども植物園)

(2)米国オレゴン州ツアー

(3)かながわ山岳プロジェクト山行(6回)

などの活動が中止に追い込まれました。特に米国オレゴン州ツアーは、当支部にとって初の海外ツアーであり、いろいろと事前準備を会員自らの手で進めていただけに残念でなりません。

ですが、この新型コロナ禍に屈することなく、新たな企画を立案していきたいと思っています。単に山に登るというだけでなく、動物学や植物学、地形や地図といった自然地理学、あるいは、山の歴史文化に関連するような企画が出来ないものか、さらに一歩踏み込んで、山に行けない雨の日でも、家の中で山遊びが出来ないものかと日頃、思案しています。

例えば、自然観察会でも、今回は、白い花だけに着目するとか、少しテーマを掘り下げること、何か深い知識が得られる(あるいは、印

象が強く記憶に残りやすい)のではないかと考えています。また、歴史文化の面では、神奈川の山城跡を訪問してみる、源頼朝の足跡(箱根南部には、頼朝伝説が多くあります)を辿ってみるなど、テーマを特定して活動する事が考えられます。一方、雨の日でも楽しめる作業として、10年前、20年前に撮影した山の光景と現在のそれとを比較してみるなどの記録整理があげられます。

皆様におかれましても、企画・アイデアがございましたら、是非、支部事務局の永井まで、ご一報頂ければ幸いです。

どうか今年度も、支部活動に積極的なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### ★～新役員紹介

新しく神奈川支部の役員として加わったフレッシュな会員を紹介いたします。

#### 渡邊正敏氏 (No.16276)



このたび役員に就任致します渡邊正敏(16276)です。昭和23年8月、栃木県宇都宮市生まれで、3歳ころ以降は、東京育ちです。

日本山岳会入会のきっかけは、上高地の山研へ旅したのが縁となりました。その旅では勤務先の先輩たちと先輩たちの仕事の縁で森先生とご一緒になりました。夜の会食の宴たけなわのころ、森先生から山岳会への入会を勧められました。そのころもう古希近くの年齢でもあり、入会をためらわれましたが、入会すれば楽しいことがあるよとのことで、入会することになりました。そのお陰で、神奈川支部の山行を楽し

んでおります。

山歴についてですが、若いころから山歩きは好きで近郊の山野に時々出かけておりましたが、50歳を前にして、日本百名山踏破を意識するようになりました。それ以降、単独であるいは友人たちと、時にはツアーに参加するなどして、64歳にして百名山を踏破することが出来ました。

蛇足ですが、山歩きをしているうちに花々や樹木に興味を惹かれ、植生について講習をうけるなどして森林インストラクターの資格を取得しました。また、山行を左右します天気(気象)について、通信教育などを受けて、気象予報士に合格できました。

上記の経歴を生かして自然保護関係を担当してまいりますので、宜しくお願い致します。

(記：渡邊正敏)

#### 田中浩二氏 (No.16461)

田中さんは今年で53歳になる大変多忙な社会人です。数年間東南アジアの経済発展を遂げた親日の国に駐在され国際経験も豊富な方で、国内有数のロジスティックス・ウェアハウス企業に勤めています。また、大学でこの方面の教育も行っていました。

山については、大学のころから登山を趣味として国内の高峰にチャレンジしてきました。現在も穂高連峰、八ヶ岳山塊が主なゲレンデでシーズンを問わず足を運んでいます。



日本山岳会に誘ったのは小生と同じ「神奈川県山岳赤十字奉仕団」の団員という縁がありました。救急法指導員の資格を持ち、丹沢大倉で山の日イベントのレスキュー講習会や神奈川県山岳連盟の加盟山岳協会会員向けの救急法指導も実施しています。神奈川支部活動では昨

年 2 月に一般市民も対象としたアウトドアレスキューの指導も行いました。山岳耐久レースの救急スタッフとしての経験もあり、これからも会員に安全指導を続けていただきたいと思えます。(記：早川記)

#### 葉上徹郎氏(No.16469)

葉上氏は昭和 25 年 8 月生まれで、現在座間市在住。大学卒業後、令和元年(2019 年)まで日本経済の牽引役として企業で活躍されてきました。

山歴としては高校で奥多摩デビューし、奥秩父、後立山などを踏破。また大学では穂高、後立山、南アルプス、八ヶ岳、上信越の山々などで夏山や積雪期登山、岩登りを、また丹沢や上越の山では沢登りに励んだと伺っています。大学卒業後は、苗場、巻機、尾瀬などでスキーを楽しむ日々を送りますが、ある時期山を離れたこともあったとのこと。しかしながら山への思い断ち難く、2016 年に日本山岳会準会員となり、2017 年に神奈川支部入会、2019 年から日本山岳会正会員となって現在に至っています。山のほか、趣味はゴルフと社寺巡礼とのこと。それから私事で恐縮ですが、ある山行の後、葉上氏と懇親会で雑談していたところ、私の郷里長岡で一時期、同じ中学に通っていたことがわかり(学年は私が 1 年上です)、懐かしさと同時に奇遇に驚いた次第です。

葉上氏は支部の山行や行事に積極的に参加されるなど、支部の活動にとっても熱心で、今後も役員として更に素晴らしい活躍をしていただける、有能な人材であると確信しています。



(記：込田記)

## 山行報告

予定されていたかながわ山岳誌の山行及び自然観察会は、すべて中止となりました。

### 『妙高山麓便り』

小笠原 辰夫 (No13670)



↑ 5 月の妙高山

神奈川支部の皆様、如何お過ごしでしょうか？

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、3 月より長期に渡る外出の自粛を余儀なくされて、さぞかし登山の虫もウズウズとうずき始めていることと推察いたしております。そんな折、広報担当の田島様より、支部の山行も停止状態の為、支部報の掲載記事が無いので、妙高より『山麓便り』の記事の依頼を受けました。当方の宿も今シーズンの暖冬少雪に伴い 3 月上旬のスキー客がほとんど来なくなってからは、コロナ禍により開店休業状態ですので、時間はたっぷりあり快くお引き受けした次第です。

それでは早速ですが、妙高高原の例年の歳時記を宿の紹介等も兼ねて、写真を添えてご案内させていただきます。

まず、妙高といえば 12 月中旬から 5 月の GW までがスキーシーズンです。山麓周辺には近隣のスキー場を含め 10 以上のスキー場が点在し、近年はオーストラリアや欧米からの長期滞在の外国人スキーヤーがシャトルバスを利用し

て日を変えて様々なスキー場へ訪れます。このシーズンは私も宿のオーナーとして色々なスキー場へお客様をご案内させて頂き共に楽しませていただいております。

スキーシーズンが終わると、水芭蕉やカタクリ、桜等早春の花々が見頃となり、美しい新緑の季節の到来です。



咲き始めたばかりの山野草とコゴミやフキノトウ、ウドの山菜を採りながら周辺の低山を登るのがこの時期の楽しみになります。イベントとしては、上越地区の『日本三大夜桜高田城址公園百万人観桜会』や池の平地区の『大かやば焼き草原祭』、関山地区の『大洞原の菜の花祭り』などが開催されます。またこの時期には妙高山の山頂直下に『山』という字の見事な雪形が現れ一見の価値があります。

5月中旬から7月にかけては山菜採りが本番です。タラの芽、ワラビ、コシアブラ、根曲竹等が主ですが、やはり登山をしながら採取する



のが楽しい方法なので山好きな方達をご案内し、登山と山菜採りを共に楽しませていただいております。

そして、雪解けが進み水量が増した迫力のある滝を見るのも楽しみの一つです。

梅雨が明ければ登山シーズンとなります。妙高山、火打山、黒姫山、飯綱山、戸隠山、高妻山、雨飾山等が11月の雪が降る直前まで楽しめます。特に10月の紅葉シーズンは素晴らしい景色を堪能できます。



↑ 苗名滝

あまり体力に自信のない方は、全長80キロに及ぶ信越トレイルのコースや頸城山塊の南葉3山の縦走等、当館を起点に様々なルートを楽しむ事が出来ます。勿論、キノコが詳しくればキノコ採りも兼ねて楽しめます。

下山後は、自然の中にある露天風呂に入るのも野性味があり、秘湯中の秘湯を体験する良い機会です。最後に妙高は信州の戸隠と隣接しているのでお蕎麦が美味しいのと、日本海にも近いので美味しい海の幸が味わえます。更に新潟県ですから美味しいお米と美味しいお酒が造られています。私は東京から移住して30年以上になりますが、四季折々が楽しめ海の幸、山の幸を味わえる素晴らしいところです。是非、コロナ禍が収束し、安全、安心が確保出来たならば、支部の皆様にご案内させて頂けたら幸いです。

## 役員会報告

### 3月役員会

日時：令和2年3月19日(木) 19時05分～20時30分

場所：神奈川工科大学横浜事務所

出席者：込田支部長、大槻副支部長、早川副支部長、永井事務局長、森、青木、落合、田島、長島  
委任状による出席：植木、柴山、廣岡

### 議事

#### [議事録の承認]

前回(令和元年度第10回)議事録は承認された。

#### [報告事項]

##### (1) 山行報告

- 永井より、2/22に山岳誌プロジェクトHコースとして実施した新松田駅＝大滝橋 BS～権現山～畦ヶ丸～善六ノタワ～西丹沢ビジタセンターBS＝新松田駅についての報告があった。参加者は4名。
- 森より、3/14に山岳誌プロジェクトLコースとして実施予定であった南山・松茸山は、悪天候のため中止

した旨の報告があった。

- ・森より、2/29・3/1 に実施予定であった気象講演会および金時山山行は、宿泊をとまなうため新型コロナウイルスの影響を考慮して中止（延期）した旨の報告があった。

## (2) 案内・報告

- ・永井より、かながわ山岳誌プロジェクトの中間報告を会報に寄稿した旨の報告があった。会報4月号に掲載される予定。

## [審議事項]

### (1) 年間スケジュール

- ・5/23 の支部総会前の記念講演会は、一般公開のため新型コロナウイルスの影響を考慮して中止することにした。講演を予定していた近藤和美氏には来年依頼することにした。
- ・5/23 の支部総会の実施に関する詳細は来月の役員会で決定することにした。
- ・5月末から6月上旬に予定しているアメリカオレゴン州への支部山行も実施困難が想定されているので、起案者の富岡・打矢に最終確認することにした。

### (2) 山行計画

- ・山岳誌プロジェクトのHコースとして、3/28 に厚木バスセンター＝上三増～三増峠～志田峠～雨乞山～根小屋登山口～城山～津久井観光センター＝橋本駅を実施予定。現時点での参加申し込みは7名。留守本部は、大槻と長島が担当。
- ・山岳誌プロジェクトのLコースとして、4/11 に藤野駅～葛原 BS～天神峠～高倉山～天神峠～金剛山～一本松山～京塚山～弁天橋～藤野駅を実施予定。現時点での参加申し込みは8名。留守本部は、早川と長島が担当。
- ・山岳誌プロジェクトのHコースとして、4/25 に箱根湯本駅～三所山～白銀山～天明山～星ヶ山～南郷山～鍛冶屋 BS＝湯河原駅を実施予定。留守本部は次回決める。

### (3) その他

- ・永井より、舟根会員（自然保護担当）から提案のあった自然観察会の詳細について説明があった。至急、会員への案内を行う。募集の窓口は永井が担当。
- ・森より、かながわ山岳誌プロジェクト報告書の目次案について説明があった。神奈川山域の特徴に関しては、原稿受領3件、原稿依頼中3件で、予定している分野のすべてをカバーすることができた。踏査は60%強が完了し、踏査報告は約50%が提出済みである。
- ・永井より、支部で購入した備品リストについて説明があり、保管者が不明なものが2件あるので、メールで確認依頼することにした。
- ・込田より、来期の役員・監事の人事について全員留任を要請したところ、特に辞退などの申し出がなかったので、これで総会に諮りたいとの提案があり承認された。なお、役員の本数が残り3つあるので、新任者を人選し4月役員会に諮ることを確認した。
- ・青木より、令和元年度の支部会計報告、本部からの交付金使用実績、メール未使用者リスト、メール未使用者通信費会計報告について説明があり、承認された。

## 4月役員会

新型コロナウイルス拡大防止という社会的要請を踏まえ中止。

メールにて以下の議題の審議を行い承認された。

### (1) 前回議事録

#### (2) ①山行計画の中止について

- ②5月役員会の実施可否について、5/9までに判断

#### ③支部総会について

- ・支部総会の方法
- ・総会の決議事項内容について
- ・令和2年度神奈川支部執行体制(案)

## 5月役員会

日時：令和2年5月23日（土）20:00～21:10  
場所：各自の自宅

（注）新型コロナウイルス拡大防止という社会的要請を踏まえ、ネットを用いたテレビ会議とした。

参加者：込田支部長、大槻副支部長、早川副支部長、永井事務局長、森、青木、長島、柴山、廣岡、植木

委任状による出席：田島、落合

監事：富岡

オブザーバー：渡辺

〔議事録の承認〕

前回（令和2年度第1回）議事録は承認された。

〔報告事項〕

（1）会員の異動：前回、支部への入会報告のあった田口光江さんは、準会員（A0106）から正会員（16598）へ変更。

（2）山行報告：5月に予定していた5/9と5/24の山行は中止にした。

（3）永井より、次の2件の報告があった。

・令和元年度末の備品リストの確定版

・「山岳」に掲載する令和元年度支部報告に関して（支部総会での令和元年度事業報告と同内容）

〔審議事項〕

（1）令和2年支部総会に代わって実施した書面議決の結果が報告された。

議決権行使有資格者：151名。支部長/事務局長への委任状による議決者：54名、書面議決者：28名（全員、全議案に賛成）により、議案賛成者は82名となり、過半数を超えているので、5件の議案はすべて可決承認されたことを確認した。

（2）かながわ山岳誌プロジェクトの山行の件：6/13のLコースは中止。6/27のHコースはLコースに変更し、藤野駅南の高倉山・一本

松山を実施。ただし、社会状況を考慮し、実施するかの最終判断は6月上旬に決める。その対応は、森・永井に一任することにした。

（3）10月31日の計画している南関東3支部合同懇親山行の実施の有無に関しては6月役員会で審議することにした。（資料2-5）

（4）6月役員会は、6/18（木）19時から神奈川県工科大学横浜事務所で開催する。ただし、開催が困難な状況の場合には、テレビ会議に切り替えることにする。

## 今後の予定 役員会

6月18日（木）19時～

7月16日（木）19時～

8月はありません

9月17日（木）19時～

於：神奈川県工科大学横浜事務所

## 山行計画

新型コロナウイルス感染症対策のため、当面の山行は取りやめ。再開については今後の役員会で判断する。

支部報14号掲載の「かながわ山岳誌」の計画も変更となる見込みのため、支部報、連絡メールなどに注意すること。

## 支部会員動静

物故 12387 成瀬昌基

退会 4983 織田澤美知子

12066 森川茂樹

12067 森川葉子

異動 16598 田口光江

（異動後、準会員から正会員に）

## あとがき

世の中はコロナ禍一色で、山にも行けず、旅行もできず、体がなまってしまう。6月下旬、趣味の御朱印帳を抱え上総一宮にある玉前神社を参拝した。御祭神は「玉依姫命」という女神で初代神武天皇の母上、安産と縁結びの神である。黒く塗られた拝殿と本殿は威厳があつてとても神々しい雰囲気。御朱印を頂きコロナ禍の鎮静を祈願して、鳥居を後にした。（た）

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：田島剛、永井泰樹、長島泰博（本支部報に関する問い合わせ先：[kng@jac.or.jp](mailto:kng@jac.or.jp)）

令和2年7月1日